



発行／秋田県スポーツ少年団 秋田市八橋運動公園1-5 秋田県スポーツ科学センター2F ☎018-866-3916
※「スポーツ少年秋田」は、ホームページでもご覧いただけます。(https://www.akitaikyو.or.jp)

令和6年度第37回秋田県スポーツ少年団指導者等研究協議会 (兼) 秋田市スポーツ少年団指導者等研修会

- 期 日 令和6年11月16日(土)
- 会 場 秋田県生涯学習センター
- 参加者 登録指導者等 57名

今年度の指導者等協議会は、「スポ少は、中学校運動部活動の地域移行にどう向き合えばよいか!？」をメインテーマに、現在県内の各市町村で進められている中学校部活動の地域移行に焦点を当てて、「基調講演」と「トークセッション」を行いました。

基調講演では、県教育庁保健体育課主任指導主事の米沢谷修氏から、「秋田県における部活動地域移行の現在地」のテーマで、本県の部活移行の現状や成果・課題、今後の在り方等について情報提供を行っていただきました。

米沢谷氏は、国実証事業のモデル地域に指定されている羽後町・大館市の実践事例や、今年度からスタートした「秋田県スポーツ指導者登録システム」等に触れ、スポ少指導者も同システムに登録するよう呼びかけました。

トークセッションでは、まずスポ少で小学生の指導を行いながら、地元中学生の部活指導にも携わっている話題提供者のお二人から、日頃の活動について発表していただきました。

羽後柔道スポーツ少年団(羽後町)の石垣智氏は、スポ少の指導をしながら、羽後中学校柔道部の外部指導者として羽後中生に柔道指導も行っています。

きたうらバレーボールジュニアスポーツ少年団(仙

北市)の大石美幸氏は、生保内中学校や神代中学校の生徒にバレーボールを指導しています。

お二人は、部活指導の大きなメリットとして、スポ少で生徒を小さい時から見ているので気心が知れていることや小学生から中学生へ途切れることなく一貫指導ができることを挙げていました。

一方、両スポ少には複数の指導スタッフがあり、役割分担しながら中学生の指導ができる体制を作っているものの、練習試合や大会等で休日がほとんど潰れることを課題として挙げていました。

お二人の発表に引き続き、トークセッションでは参加者が小グループに分かれて協議を行いました。

参加者は、「団員が中学生になっても団活動を継続することができる環境の整備」や「中学校の部活指導に携わることができるスポ少指導者の拡充」について、熱心に意見交換しました。

トークセッションの一番最後に、進行役が話題提供者のお二人に中学生の部活指導で大切にしているポイントを聞いたところ、石垣氏は「覚悟」、大石氏は「信頼関係」と答えました。

秋田県スポーツ少年団では、本協議会を契機に、指導者やリーダー養成の拡充を図りながら、団員が小学校から中学校に進学する際、いわゆる「卒団」や「退団」することなく、中・高生になっても団活動を継続することができる環境整備を進めていきたいと考えています。



基調講演を行う米沢谷氏



トークセッションの様子



話題提供者(左)石垣氏(右)大石氏



熱心に意見交換する参加者

令和6年度 第28回北海道・東北ブロック スポーツ少年団リーダー研究大会

- 期 日 令和6年10月12日～14日
- 会 場 秋田県青少年交流センター ユースパル
- 参加者 リーダー（団員）秋田県4名、宮城県2名、
山形県1名、福島県1名
運営リーダー 秋田県4名
指導者 秋田県1名、宮城県1名、
福島県1名、北海道1名
- 概 要 この研究大会は東北6県輪番で行っているリーダー研修会で、各県から高校生以上のリーダーと指導者が参加し実技研修や講義、ディスカッション、交流事業を行う。

主なプログラム

講義、レクゲーム実践と考案レクダンス、モルック、レクゲーム指導実践、ディスカッション、各種実践の反省と感想、講評

参加者の感想

畑 山 幸 代（指導者・リーダー育成プロジェクト委員）

例年この事業はリーダーが主に研修内容を企画し運営も担当しているが、リーダー層の厚い本県はほとんどリーダーが主体で行うことが出来た。レクゲームの考案及び指導実践では、アイデアを出し合い実践、評価し、さらにレベルアップする姿が見られ頼もしかった。この夏の全国スポーツ少年大会を秋田県で開催したことで、本県リーダーはスキルアップが図られ結束も強まっており、他県参加者にはよい実践例をお見せできたようだ。

また、宿泊しての研修で遠方のリーダーとの交流を深めていたり、指導者間でも情報交換のよい機会となったり、とても有意義な事業であった。

高 橋 哲 哉（湯沢市リーダー会スポ少 秋田大学3年）

今回秋田県開催ということで自分たちが主体で動く点多々あったが、他県のリーダーと交流を深めつつ、楽しみながら活動をする事ができたので本当に良かったと思う。活動の中で特に印象に残っていることは自分たちでレクリエーションを企画し、それを実践して最後にそれまでの過程を踏まえての反省会を行うことができたことだ。今までレクリエーションをする機会は多々あったが、定番になっているものやインターネット等についているものを実践することが多かったが、今回は自分たちで一からレクを考えて実践することができ、発想力や臨機応変な対応をする力を付けることができたことが自分の成長にもつながったと思う。今回の研修会で学んだことを今後の秋田県リーダー会に活用できるように頑張っていきたいと思う。

福 原 航 平（大曲ミニハンドボールスポ少 秋田大学大学院2年）

今年度、開催県のリーダーとして参加して、たくさん成果と課題を知ることができた。

まず、成果として秋田県のリーダー会全体の成長を実感することができた。コロナ禍の頃は思うように活動ができず、不安を感じることもあった。そんな中、本県では7月に全国スポーツ少年大会があり、準備や運営を行ったことでリーダーとしての技術や心構えが大きく成長していた。今回の研究大会では、他県のリーダーと関わることで、その成長を感じることができた。特に、1人1人の主体性が高まったと思う。自分から積極的に他県のリーダーと関わろうとする姿や楽しそうにレクゲームを実践する姿が見られた。

反面、細かいスキルアップが課題として残った。レクゲームの説明の仕方や後輩の育成の仕方など課題は多い。これらをつづつ解決し、よりよいリーダー会にできるように今後も精進していきたい。



令和6 (2024) 年度日本スポーツ少年団シニア・リーダースクール

- 期 日 8月8日(木)～11日(日)
- 会 場 国立中央青少年交流の家(静岡県)
- 参加者 小畑 舵(大館市)
- 概 要 リーダーの資質向上をはかるとともに、将来のスポーツ少年団指導者の育成を目的としており、事前課題・講義・事前研修を修了した参加者が全体研修会場に集合しスクールプログラムに取り組んだ。

小畑 舵(SNOWスポ少)

今回のシニアリーダースクールでは、大きく二つのことを学びました。

一つ目は、指導案の作成です。指導案の作成を通じて、以下の三つの重要な点を学びました。

1. **目標設定の重要性**
指導案を作成する際、指導実践の目標を明確にすることが大切であると学びました。目標が具体的であるほど、子どもたちがどのような学びを得るべきかがはっきりし、指導実践の進捗がスムーズになることがわかりました。
2. **時間配分の難しさ**
指導案では、限られた時間内でどのように内容を伝えるかを考える必要があります。時間配分が上手くいかないと、指導実践が予定通り進まなかったり、重要な内容を飛ばしてしまうことがあるため、非常に重要だと感じました。
3. **子どもたちの多様性を考慮すること**
子どもたちの理解度や興味は個々に異なるため、指導案では異なる年齢の子どもたちに合わせた指導法や遊びの工夫が求められることを学びました。指導案作成は、指導実践の流れを考える作業だけでなく、いかに子どもたちの学びを深めるかを考えるプロセスであることを実感しました。また、指導実践を円滑に進めるためには、事前に細かい計画やシミュレーションが必要であり、指導案作成を通じて

リーダーとしての準備がいかに大切かを強く感じました。

二つ目に学んだことは、子どもたちへの接し方や指導の仕方です。指導する際には、子供の目線に立ったコミュニケーションが重要であることがわかりました。複雑な言葉や指示を避け、わかりやすく伝えることで、子どもが理解しやすくなり、自分で考えて行動する力が養われると学びました。また、子供にとって褒められたり励まされたりすることは大きなモチベーションになり、ポジティブなフィードバックを通じて子供が挑戦する意欲や自己肯定感を高めることができると感じました。総じて、子どもたちへの指導は、知識や技術を教えるだけでなく、心の成長や自己肯定感を育むことが大切だと感じました。シニアリーダースクールでは、様々なバックグラウンドや考え方を持つ人たちとのやり取りを通じて、効果的なコミュニケーションの重要性を改めて実感しました。言葉だけでなく、態度や行動を含めた包括的なコミュニケーション方法を身に付け、相手の意見に耳を傾け、共感する力も養われました。また、予想できない状況や新しい課題に対処する必要があると感じ、変化する状況に対して柔軟に対応し適応する力が養われたことは、大きな成長だと思います。

シニアリーダースクールを通じて、リーダーとしての総合的なスキルだけでなく、人間的な成長も実感できた貴重な経験だったと感じています。



令和6年度スタートコーチ(ジュニア・ユース)養成講習会

ジュニア・ユース期のスポーツ指導者において、スポーツ少年団をはじめ、総合型地域スポーツクラブ、学校運動部活動等の地域スポーツの場で活躍できる人材(資質能力を備えた指導者)を育成することを目的とした講習会。

今年度は、5コース3会場で実施し、409名が参加した。

	コ ー ス	期 日	会 場	受講者
県 北	大館市コース	9 / 8 (日)	大館市立中央公民館	78名
中 央	秋田市1コース	9 / 23 (月・祝)	秋田県生涯学習センター	92名
	秋田市2コース	10 / 19 (土)	秋田県生涯学習センター	86名
	秋田市3コース	11 / 9 (土)	秋田県生涯学習センター	75名
県 南	大仙市コース	12 / 21 (土)	大曲交流センター	78名
合計				409名

オフィス環境のトータル・サポーター



株式
会社

アシスト

- 〒010-0063 秋田市牛島西一丁目5番1号
- TEL : 018-884-7600 FAX : 018-836-6088
- E-mail : info@assist-one.co.jp

- オフィス通販『アスクール』正規取扱店
- 事務用品・事務用機器・OA機器・オフィス家具
- オフィスデザイン・プランニング設計
- 防災・災害用品資機材
- OAフロア、可動間仕切、造作家具
- インテリア製品及び内装工事設計施工

秋田県スポーツ少年団リーダー会 活動紹介

令和6年度の活動（会場）

5月：総会（秋田市：秋田県スポーツ科学センター）

新年度の事業計画の協議や新役員の選出を行い、ここから新体制でのリーダー会がスタートします。今年は全国大会に向けた話し合いも行いました。

6月：全国スポーツ少年大会事前研修（秋田市：青少年交流センターユースパル）

全国大会を成功させるために1泊2日の事前研修を行い、大会での動きの確認やスタッフの顔合わせ、各種協議や実技研修を行いました。この研修で多くの不安が解消できよい準備となりました。

7月：全国スポーツ少年大会（仙北市：田沢湖スポーツセンター他）

今年一番のリーダー会での活動で全国各地から団員が集まり、スポーツ活動や交流活動を行いました。当日は天候が悪く予定が変更になったり、ハプニングが起きたりしましたが、リーダー会やスタッフが団結し成功させることができました。



7月：日独スポーツ少年団同時交流（派遣：ドイツ、受入：なし）参加者（指導者1名、団員5名）

ドイツと日本のスポーツ少年団団員が相互に訪問し、約2週間の期間でスポーツ活動や研修、ホームステイを通して国際交流を行いました。スポーツを通じた国際交流は貴重な経験ができる事業です。

8月：シニア・リーダーズスクール（静岡県：国立中央青少年交流の家）参加者（団員1名）

4泊5日の日程でスポーツ少年団やスポーツ指導、安全管理などを学びシニアリーダーの資格を取得します。全国各地のリーダーと交流を深める絶好の機会にもなります。

10月：北海道・東北ブロックリーダー研究大会（秋田市：青少年交流センターユースパル）

北海道と東北6県のリーダーが集まり、講義やスポーツ活動、各県の事業の情報交換などを2泊3日の日程で行います。今年度は秋田県開催でプログラム作成や運営など大変な点もありましたが、協力して準備を行い、当日は他県のリーダーと楽しみながらスキルアップを果たすことができました。

11月：全国スポーツ少年団リーダー連絡会（東京都：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE）

全国各ブロックの研究大会の活動報告やディスカッションなどを行います。今年度は現地参加もすることができ、直接他地域のリーダーと交流することもできたのでさらに貴重な経験ができたと思います。

1月：リーダー研修会（秋田市：秋田県生涯学習センター）

リーダーとしてのスキルアップを目指して講義やレクリエーション実践を行いました。ここで学んだスキルをこれからの活動に生かしていきたいと思えます。



3月：リーダーの集い（秋田市：秋田県スポーツ科学センター）

リーダー会の活動紹介やレクリエーション実技を通してリーダー間の交流を深めることをメインにした活動を行います。

新規入会希望者の参加、大歓迎です。

◎秋田県リーダー会から

今年度は全国大会があり激動の1年でしたが、次年度は今年の経験を活かしてさらに良い活動ができるように頑張っていきます！これからも秋田県リーダー会をよろしくお願ひします。

●問い合わせ先

秋田県スポーツ少年団 〒010-0974 秋田市八橋運動公園1-5 秋田県スポーツ科学センター内
TEL：018-866-3916 Mail：shonendan2-akitaken@japan-sports.or.jp

リーダーが振り返る全国スポーツ少年大会

片岡 恵生 (かたおか けいせい)
(上小阿仁村 かみこあにスポ少 中3)

「みんなを楽しませることができた」

今回の全国大会を通して学ぶことが沢山ありました。初めて全国大会に参加したのでとても緊張していたし、さらに班付きリーダーとしての役割もあったので不安でいっぱいでした。実際に3泊4日の大会では人見知りという短所があったので、なかなか何もできずにいましたが先輩方の助けがあり、なんとか動き出すことができました。それからは暗中模索の状態でしたが責任を持って班のみんなを楽しませることができるように行動できたと感じています。

尾崎 桜彩 (おざき さや)
(鹿角市 鹿角クロスカントリースキースポ少 高2)

「失敗からたくさん学んだ」

全国スポーツ少年大会に参加して、人数の多さに驚きました。レクリエーションの説明をするときに、緊張してマイクを持つ手が震えていたのを覚えています。私の中で、最後まで班の子の名前を覚えることができなかつたのがとても悔しかったです。私は、開催地リーダーとして参加することができて、たくさん失敗して学ぶことができて、全国の団員と交流することができて本当に良かったです。今度は、名前を呼んであげられるように努力したいです。

船山 友菜 (ふなやま ゆな)
(湯沢市 湯沢市リーダー会スポ少 大3)

「これからも貢献したい」

今回リーダーとして参加することは、私にとって大きな挑戦でした。生活の拠点が県外に移りリーダー会の活動にあまり参加できていなかったのが初めは不安でした。それでも、班のみんなや指導者に支えられ、私自身も大きく成長することができました。特に班の子たちが、お別れが寂しくて泣いたり、「本当に楽しかった!」「短期間でこんなに仲良くなれるんだね!」「次の全国大会で会おう!」と連絡をくれたりしたことが本当に嬉しかったし、みんなにとってよい思い出になったようでよかった

です。改めて、リーダー会の活動で得られるものの素晴らしさや見えるものの美しさを実感しました。このような経験をより多くの子どもたちにしてもらえるように、今後も私なりに貢献できたらと思います。素敵な機会をくださり、本当にありがとうございました。

田口 聖人 (たぐち せいと)
(大館市 大館市スポーツ少年団リーダー会 21才)

「自分自身も成長できた」

自分は人見知りであり人前に立つのが得意ではないので、全国大会で初めてリーダーをやる事になり、とても不安でした。それでも未経験者なりにできることを考え、団員を全力で楽しませる事を目標にしました。恥ずかしさを捨て、指導者や他のリーダーの動きを見ながら班のみんなを全力で盛り上げようと思いました。最初はコミュニケーションを取るのが難しく戸惑いましたが、アイスブレイキングや秋リンピックなどでみんなをまとめていくうちに、絆を深めることができました。この大会を通してリーダーや指導者と助け合いながら自分自身も成長することができ、自分にとって学びの多い大会になりました。

柴田 雅志 (しばた まさゆき)
(三種町 県リーダー会OB 33才)

「素晴らしいイベントに仕上がった」

今回3泊4日で行われた全国大会ですが、コロナ禍後の新体制になってから初めての大きい大会で、会長や副会長、現役リーダーを含め本大会では今まで運営に携わっていた県大会とは規模だけではなく会場、進行内容も違うということもあり、戸惑いや不安に駆られていたと思います。

そんな中、「報・連・相」を密に行うことで様々なイベント、特に秋リンピックや野外フェスティバルも素晴らしいイベントに仕上がったと思います。個人的には最後の振り返り動画が間に合って良かったです。携わった皆様、本当にお疲れさまでした。



NO!
スポハラ

NO!
スポハラ

私たちは、「スポハラ」のないスポーツ界を目指します。

第47回秋田県スポーツ少年団競技別交流大会

9月以降は7種目において、競技を通じて交流を深めた。(※成績は団体のみ掲載)



●ラグビーフットボール

9月28日～29日(大潟村ラグビー場)

●参加数 18団、245名

- 優勝【高学年】Aブロック:大潟ラグビースポーツ少年団
Bブロック:男鹿ラグビースクールスポーツ少年団
- 【中学生】Aブロック:秋田ノーザンブレッツ・ジュニア
ラグビースクールスポーツ少年団
- Bブロック:秋田市エコー金足西少年
ラグビークラブスポーツ少年団

●卓球

2月11日(由利本荘市総合体育館)

- 参加数 12団、138名
- 優勝 男子:秋田卓球会館スポーツ少年団A
女子:県南卓球道場スポーツ少年団A



●ミニバスケットボール

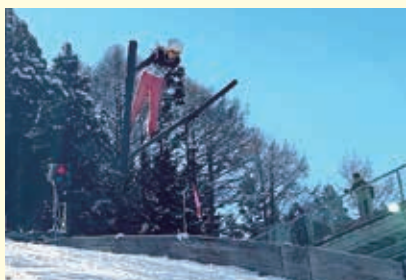
女子:11月30日～12月1日/男子:12月7日～8日
(秋田県立田沢湖スポーツセンター)

- 参加数 女子12団、212名/12団、男子224名
- 優勝 女子 川尻女子ミニバスケットボールスポーツ少年団
男子 八橋男子ミニバスケットボールスポーツ少年団

●バレーボール

10月19日～20日
(男鹿市総合体育館・男鹿市若美総合体育館)

- 参加数 45団、602名
- 優勝(各ブロックごと)
A:山瀬 B:平沢 C:広面 D:本由 E:美郷 F:きみまちウインズ
G:雄和 H:大住 I:港北 J:鷹巣スマイルズ K:牛島 L:桜
M:勝平 N:象潟 O:北陽



●スキー ジャンプ

1月13日(花輪スキー場)

●参加数 12名

●スキー アルペン

2月2日(稲川スキー場)

●参加数 48名

●スキー クロスカントリー

2月15日～16日(田沢湖スポーツセンター)
クロスカントリースキーコース

●参加数 44名

私たちの団

各団の一行目は団名(市町村)、種目、団員数(学年)、活動場所、代表指導者

旭川陸上スポーツ少年団(秋田市) 陸上35名(小4~小6)

旭川小学校 大友 重雄

秋田市立旭川小学校 6年 武藤 仁那

私たち旭川陸上スポーツ少年団は、4~6年生全員で35名と、他の団と比べても人数の多い団です。私たちは、学年や男女問わず、監督やコーチ、保護者の方々を含めみんな仲良しです。

いつもはふざけ合って笑ってばかりですが、「やる時はやる」その姿勢が私たちの自慢です。

1人はみんなのために、みんなは1人のために声を掛け合い、みんなで高め合いながら日々の練習に励んでいます。

そして、物を大切に、挨拶をきちんとする、人の話は目と耳と心で聞くなど、普段の生活が結果に繋がるということをお教えました。

これからも仲間を大切に、支えてくれる全ての方々へ感謝しながら全力で団活動に取り組んでいきたいです。



矢島柔道スポーツ少年団(由利本荘市) 柔道18名(幼児~中3)

矢島格技場 木村 智明

由利本荘市立矢島小学校 5年 畑澤 煌太

矢島柔道スポーツ少年団は、幼児から中学生までの18名が活動しています。いつもチームの絆を生かして仲良く、そして楽しく活動しています。私たちは「礼儀」を大切にして練習しています。

試合では、声を出して応援し勝ち負けにこだわらず相手に敬意を払って行きます。「全県1位」「東北1位」「全国1位」を狙うために日々、監督やコーチに指導を受けながら頑張っています。

監督、コーチ、選手、親の会でチーム一丸となり「日本一」になれるように頑張っていきたいです。



東成瀬村スポーツ少年団(東成瀬村) ミニバスケットボール10名(小2~小5) 東成瀬村民体育館 高橋 裕子

東成瀬小学校 5年 高橋向日葵

東成瀬村スポーツ少年団ミニバスケットボール部門は、2年生~5年生までの10人で活動しています。

私たちのチームは学年関係なく仲が良く、いつも明るく楽しくバスケットボールをしています。

私たちのチームには6年生がいなかったため、2年続けてのキャプテンとなります。

このメンバー、コーチ、保護者の方々に頑張る最後の年になるので、1日1日を大切にしながら練習を頑張っていきたいです。

負けてばかりの私たちですが、勝つという気持ちだけは負けません。

この気持ちを武器にして、勝つことを目標に頑張っていきます。

元気よく! 明るく! 楽しく!



Tombow

最後まで、驚くほど軽く引ける

テープのり新基準 独自機構「エアータッチシステム」搭載

エアータッチシステム

新開発
パワーネット
テープ

静音設計

エア
フィット
ヘッド



PIT AIR エア

テープのり ビットエア- 462円(税抜価格420円)



オリジナルギフトや
記念品に!

【テープのり】ビットエア-



別注・お名入れ対応も可能です。

お見積り・ご注文は、お近くの文具取扱い店舗へお問合せをお願いいたします。

インクジェット
印刷対応

小ロットに
最適

株式会社トンボ鉛筆
<https://www.tombow.com>

夢を支える応援団

スポーツ少年団を支える指導者・育成母集団の声

選手の可能性は無限大!

藤里クラブスポーツ少年団陸上競技部門

指導者 佐々木 信

当部門は、平成28年に旧藤里中学校（現在の義務教育学校藤里学園）の生徒で「陸上競技」に取り組みたい選手の指導を開始したのをきっかけに、学園に部活動が無く、無所属で活動してことを鑑み、令和3年度から藤里クラブスポーツ少年団に所属し、現在に至っています。

順番は後先していますが、結果として部活動の地域移行としてスポーツ少年団が受け皿となっています。

当部門は、陸上競技の結果より先に社会へ出てから必要となる「挨拶」「ルール遵守」「マナー」に重きを置き、日々指導しています。団員数は現在7名と少数ではありますが、陸上競技に「情熱」を注ぎ練習しており、「全県大会」「東北大会」「全国大会」を目標に日々の練習に取り組んでいます。

まだまだ成長途中ではありますが、観ている人を熱くさせる・感動させられる選手に育ってほしいと思っています。また、卒団した選手から指導の道に進みたいと言った声が上がっていることは指導している立場からうれしい限りです。

選手数が減少していく一方ではありますが、今後も指導していく中で陸上競技の魅力伝えていき、1人でも多く陸上競技に携わってほしいと思っています。



スポーツから得られるもの

大潟村剣道スポーツ少年団

親の会 目黒卓也

大潟村剣道スポーツ少年団は、団員数は6名と少人数で活動していますが、剣道を通じてスポーツに親しみ、仲間と楽しく、自分の成長に繋がるよう日々練習に励んでいます。また、地域貢献としてボランティア活動にも積極的に参加し、地域とのつながりも深めています。

近年、子どもの減少やスポーツ離れもあり、新入団員がなかなか増えない状況にあります。それでも当団は、団員が元気に活動し、日々成長していく姿を見て父母も元気をもらい、親子ともに成長するそんな団であると思っています。

剣道の技術はもちろんですが、武道には礼に始まり礼に終わるとあります。あいさつや返事など基本的な礼節を身につけ、精神面でも一人前の剣士に育ってほしいです。

何事も、興味を持てば好きになる。好きになれば考える。考えることができれば成長する。まだまだうまくいかないことばかりかもしれませんが、自分達の可能性を信じ、みんなで挑戦していこう!



目ざせ世界の頂点!



がんばる
ジュニア
応援します



あらゆるニーズにお応えする

松原印刷社

〒010-0951 秋田市山王七丁目5-29

TEL 018-862-8760(代)

FAX 018-863-0005

http://www.matsubarainsatsu.co.jp

E-mail:matsubara@matsubarainsatsu.co.jp